

事例 1

「安心して住み慣れた家で生活したい」



相談内容

82歳の大石美智子さん(仮称)は要介護1の認定を受け、認知症対応型デイサービスを週2回利用しています。

最近ではうつ傾向が見られるため、精神科の診療も受けています。

現在は長男夫婦と同居していますが、精神的にうつの状態にあるため、家の中に閉じこもりがちになり、家の中でもほとんど動くことがなく、急激に身体的機能が低下してきています。

そのため、家の中でも動きやすく、特に手すりの設置を中心とした安心して生活できる住宅改修(トイレ・浴室・玄関等)をしたいとの相談がありました。

家族が希望する住宅改修

家の中でも動きやすく、立ち上がりやすいように手すりをつけて欲しい。

美智子さんの身体状況を確認してみました → その結果美智子さんに必要な住宅改修は？

—専門家からのアドバイス—

①認知症によるうつの状態にあると思われます。



長年生活している家で、美智子さん自身の家の中での移動や生活のリズムなどは維持できています。
大がかりな改修やライフスタイルの変更は、認知症を悪化させる原因となるため望ましくありません。

②歩行の際にすり足(足をすって歩く)が顕著にみられます。



すり足が顕著なため、移動時に敷居(段差)による転倒の危険性が高いことが考えられますので、敷居の撤去を進めていくことが急務です。
手すりの設置については身体状況の変化により検討することが望ましいと思われます。

③椅子やベッドからの立ち上がりが困難な状況にあります。



ベッド・ソファなど座面が沈み込みやすいものからの立ち上がりが困難ですが、身体状況から判断し低下しているとは判断できません。
立ち上がりが困難なのは環境要因によるものが考えられますので、ベッドやソファを立ち上がりしやすいものに変更することで解消されると思われますので、身体状況の変化により検討していくことが望ましいでしょう。

総合意見

専門家からのアドバイスからもわかるように、美智子さんが安心して家の中で生活するためには、まず、敷居(段差)の撤去が必要です。手すりは身体状況の変化にあわせて取りつけていくとよいでしょう。